

磨き上げた成形合板技術と一貫生産体制で 椅子に新たな価値を創造する

同社は、1944年に豊南航空工業として豊橋市前田南町に設立、1948年に豊橋木工に社名変更し、木製家具の製造を開始。丈夫で軽く、美しい曲線を持つ部材を作ることができる「成形合板技術」を、長年にわたり磨き上げてきた。

プレス用の型も社内で設計・製作し、成形・木取・加工・研磨・組立・塗装・張り仕上げ作業までを社内で一貫生産できる体制を強みとしている。1992年に起立補助椅子を開発して以降、主として椅子を専門に開発製造販売を行っている。

- | | | | |
|----------|---------------------------|--------|---------|
| ● 所在地 | 愛知県豊橋市杉山町字知原12-1052 | ● 設立 | 1944年 |
| ● 電話/FAX | 0532-23-2151/0532-23-4522 | ● 資本金 | 5,000万円 |
| ● URL | www.toyomoku.co.jp | ● 従業員数 | 33人 |
| ● 代表者 | 代表取締役 近藤 安社 | | |



生産性向上

「椅子によって姿勢を守る」という新たな価値を創造

同社は、椅子をただ座るだけの物でなく、座ることで姿勢を守り、ひいては健康をサポートする物と捉え、新たな価値を創造している。特に、成長する子どもの姿勢を守りながら、大人になってもずっと使える椅子「アップライト」や、食事の姿勢を椅子で守ろうという発想から生まれた「セピント」は、同社が持つ成形合板製造の高い技術力と生産一貫体制、社外ディレクター、家具デザイナーと連携した自社ブランド構築を実現したことで完成した、同社の代表作である。



子どもたちの姿勢を守る椅子 「アップライト」

最新機械導入による技術向上及び生産性向上

同社では、売上が増加している「アップライト」・「セピント」の更なる機能向上と生産量増加に向けて、最新の成形合板巾割機を導入している。従来同社で使用してきた巾割機に比べてより複雑な部品の切断が可能となる事で、部品数や工程の削減による生産リードタイムの短縮を図るとともに、より複雑な形状の椅子の製造技術も確立する事ができる。このように、業務効率化を図る設備更新も積極的に行いながら、常に新たな事へ挑戦し続けている。



設備投資や職場環境改善で効率化

熟練工の技術継承と作業環境への配慮で人材を活用

同社では、熟練工が長年培ってきた目利きや手際などを含めた技術を若手職人や女性職人へ継承するための社員教育に力を入れている。また、社員の外部セミナーの受講推奨、作業効率と新技術確立のための設備投資、新たな業務へのチャレンジ等も実施しており、そうした職場改善・能力向上支援が社員の意欲向上にも繋がっている。

さらに、雇用面では地元高校・および女性新卒職工も採用し、雇用創出にも積極的に力を入れている。



熟練工・若手・女性が力を合わせる

ものづくり